

世界道路交通犠牲者の日・北海道フォーラム

# 交通死傷ゼロへの提言

WORLD DAY OF REMEMBRANCE FOR ROAD TRAFFIC VICTIMS



ポルトガルにおけるキャンドル点火の様子  
© Pedro Costa/Lusa

11月21日(日)

13:15 ~ 15:45

かでの2・7 820研修室

札幌市中央区北2西7

入場無料



国連が提唱した「世界道路交通犠牲者の日」(11月第3日曜日)に連帯し、毎年世界で120万人の死者という道路交通被害者を追悼するとともに、悲劇を繰り返さず、被害ゼロを実現するため、スピードと効率優先のクルマ社会を問い直します。

## ゼロへの提言 記念講演

### クルマ社会と子どもたち

講師 今井 博之氏

「ビジョン・ゼロとは、1997年にスウェーデン議会在議決した交通事故死ゼロへのビジョンと計画である。人々の命や安全と引き換えに発展してきた産業というものは根本的に問題があり、運輸や交通は、効率よりも安全を優先すべきである。そして、クルマよりも圧倒的に脆弱な「ヒト」の安全がいかに守られているかを安全性の基準とすべきである。われわれはゼロへの科学的手段もすでに持っている」(いまい ひろゆき)



#### 〈講師プロフィール〉

1957年京都府生まれ。吉祥院こども診療所 所長、1994年愛息竜太郎君(10歳)を交通死で失う。クルマ社会を問い直す会会員、子供の安全ネットワークジャパン幹事、日本セーフティプロモーション学会理事。著書に「クルマ社会と子どもたち」(共著、岩波ブックレット)、「ありふれた子どもの病気と事故の予防」(かもがわ出版)、「死ななくてもよい子どもたち」(訳、メディカ出版)、「子どもが道草できるまちづくり」(執筆、学芸出版社)など。

## ゼロへの願い 被害者からのメッセージ

「亡き息子の願いは、交通安全」…16年前、当時7歳の博勇(ひろむ)君は、安全無視のクルマにひかれその全てを奪われました。遺された母親佐藤京子さん(札幌市)の活動と訴え。

## ゼロへの誓い 関係機関より報告

後援：北海道・北海道警察・札幌市

協力：クルマ社会を問い直す会・交通権学会北海道部会・道はだれのもの？札幌21・スローライフ交通教育の会

主催：北海道交通事故被害者の会

(札幌市中央区北1条西9丁目 ノースキャピタルビル4階 Tel.011-233-5130)

# 「世界道路交通犠牲者の日」とは

1993年にイギリスのNGO「ロードピース」が始めた「道路交通犠牲者の日」というイベントがヨーロッパを中心に広がり、2005年の国連総会で、毎年11月の第3日曜日を「世界道路交通犠牲者の日」(WORLD DAY OF REMEMBRANCE FOR ROAD TRAFFIC VICTIMS) とすることが決議されました。日本では2007年、今回の講師である京都の遺族今井博之さんがWHOの「指針」を邦訳し呼びかけ、大阪や東京そして北海道など全国でシンポジウムや追悼行事が行われるようになりました。



昨年の北海道フォーラム(写真上、11月13日札幌)では、小栗幸夫教授が、「まちと生命を守る、脱スピード社会を」と講演。ワールドディのきっかけとなったロードピースの創始者ショードリーさんから日本の仲間へ届いたメッセージ(右上)が紹介され、アピール(右下)が採択されました。

「世界道路交通犠牲者の日」が北海道、福島、東京、大阪、そのほかの日本の多くの都市で開催されることを嬉しく思います。

道路での死傷は世界が負った傷であり、これを回避するためにすべての人が手を携えて行動することが必要です。今年のワールドディのスローガンは「From Global Remembrance to Global Action (世界の追悼から世界の行動へ)」です。この週末、世界中の遺族や被害者が参加して開催される追悼の催しに、道路の危険を減少させるための協調的な行動が続くことを期待します(訳:小栗幸夫) **November, 2009**

**Ms. Brigitte Chaudhry MBE (欧州道路交通犠牲者連盟会長)**

「(前半略)自動車の普及による「高速文明」は、その一方で、かけがえのない多数の生命と健康を奪い続けています。文明や進歩とは無縁のこの「静かなる大虐殺」「事故」という名の殺傷による悲しみの連鎖を断ち切らなくてはなりません。私たちは、これまでの幾多の被害者の無念に想いを馳せ、経済効率やスピード優先ではなく、抜本的な速度制御などによる、生命尊重の生活空間づくりについて話し合いました。被害ゼロに向けた訴えと行動、そして希望が、全国と世界につながることを祈念します」

**Nov. 13, 2009 北海道フォーラム**

## ヨーロッパで進む 子どもにやさしい道

「すべての子どもたちが自分の家の近くで遊んだり、歩いたり、社会と接したりできる、適切で安全な公共スペースを保証すること。そしてそのスペースは、子どもたちが持つ潜在能力の発達を助け、自動車交通の危険から保護されていること」(「子どもにやさしい都市環境に関するデルフト宣言」2005年)より 「子どもが道草できるまちづくり」所収)



チャイルドストリート2005国際会議で採用された「あそび道」の標識 ▲

## 世界道路交通犠牲者の日「いのちのパネル展」

■ 11月17日～21日  
地下街オーロラスクエア (協力:札幌市)

「毎日流れる交通事故のニュース。「あ、事故があったんだ」…。それ位の認識でした。今回、パネルに書かれている文章を見て、亡くなった方のことや、遺された家族の方の想いを知り涙が流れました。知る機会、考える機会を与えてくださってありがとうございました。とても素敵な活動です」(パネルの感想 20代女性)

### いのちのパネル

北海道交通事故被害者の会の「いのちのパネル」実行委員会が主催。道共同募金会の助成を受け「もう誰にも悲しい思いをして欲しくない」という遺族と被害者のメッセージパネル21枚を道内各地で展示しています。

■ 11月15日～21日  
札幌市中央区民センター (協力:中央区安全協会)



昨年のワールドディ(札幌地下街)